Tomiya city information

TOMIYA all! 2

広報とみや

2018.No613

住みたくなるまち日本一を目指して

特集ページ

女性が輝くまち・富谷

～市民の活躍が地域をより元気に～

女性が輝くまち・富谷

～市民の活躍が地域をより元気に～

富谷の女性はとても元気。そう感じている市民の方は多いのではないでしょうか。今月は、地域で輝く女性たちをご紹介します。あたたかくもパワフルなエネルギーを感じてください。

市立成田保育所職員

民生委員児童委員

健康推進員

本市では、各審議会や団体において、多くの女性が活躍しています。民生委員児童委員や健康推進員など、女性の視点で市民の方にふれあい、それぞれの役割を担っています。市役所職員も約半数が女性。女性の元気と明るさが、富谷のまちづくりを支えています。

市民の皆さんの力と思いが一層輝くまちづくりのために

富谷では以前から、住民の方々による地域活動やボランティア活動が非常に活発です。そうした活動と市がしっかりと連携することで、さらに魅力的なまちづくりを推進することを目的の一つに、昨年4月、新たに市民協働課を発足しました。

富谷の住民の方々の活動は、素晴らしいものがたくさんありますが、同じ地域でも十分に認知されていない現状です。そのため、今後は広く皆さんにご紹介できるように情報をまとめ、ホームページなどで広報していくことを考えています。

そして、現在は地域で活動をされていない方の中にも、知識や経験を生かしたいと考えている方が多くいらっしゃいます。そうした方が活躍できる仕組みづくりも行う必要があり、それもまた、講演会などの開催を通し、市民の皆さんとともに学び、話し合いながら進めていきたいと考えています。

今月は、女性の視点で、「自分の得意分野や経験を生かし、楽しく人とつながりたい」という思いを持って活動されている方々をご紹介します。

市民協働課 伊東（いとう） 大助（だいすけ）

CONTENTS

p02 女性が輝くまち・富谷
p06 平成30年 戊戌 富谷市新年祝賀会
p07 市長コラム「創生」
p08 スイーツのまちとみや vol.12
p09 平成30年富谷市成人式
p10 「富谷市民バス」からのお知らせ
p11 富谷市 企業紹介⑧「公益財団法人 電磁材料研究所」
p12 とみトピ「イベントハイライト」
p14 子育て
p16 健康
p17 福祉・介護
p18 スポーツ
p19 カルチャー・学び
p22 インフォメーション
p24 とみやカレンダー

地域の方が特技を持ち寄り、集う「マルシェ」

Naritaマルシェ

平成24年成田地区で発足。「マルシェ」には「いろいろな特技や個性を持つ方が集まる場」という意味を込めている。不定期で料理のワークショップや子ども服の「おさがりの会」「まかないつき寺子屋」などを行なっている。

Naritaマルシェ代表 増田（ますだ） 恵美子（えみこ）さん

13年前に引っ越してきたという増田さん。「ご近所の方の温かさに驚きました。その感謝の気持ちも、今の活動の根底にあります」。

自分が楽しみながら誰かの役に立つことを

増田さんはNaritaマルシェの代表として、地域活性のためのさまざまなイベントを開催しています。発足のきっかけは東日本大震災でした。

「富谷は被害こそ少なかったものの、緊急時に助け合えるのは、遠くの親戚よりも隣近所の方だということを、皆さん実感されたと思います。でも、そうした気付きや連帯感も、日を追うごとに薄れていると感じ、そこに強い危機感を持ちました。多くの人がたくさんの悲しみを味わった大震災を、マイナスの経験で終わらせてはいけない、それはできないと思ったんです」

地域住民の交流を図るために、増田さんが発足当初から行ってきたのが、制服や体操着などの「おさがりの会」です。また、平成25年からは「まかないつき寺子屋」も始めました。学校が早く終わる日などに、子どもたちに宿題や勉強ができる場所を提供し、さらに、みんなで一緒に温かいごはんを食べようというものです。

「まかないつき寺子屋」の食事づくり。子どもたちが地域の大人と交流する場所でもあります。

当初は5名ほどだったスタッフも、現在は30名以上が在籍しているとか。

「こうしたイベントは、みんなで話し合って企画します。〝まずは自分たちが楽しめることをしよう〟というのが、私たちのモットー。それが長く続ける秘訣です」

防災活動を通し子どもを地域の宝に

また、増田さんは成田中学校が総合学習の一環で取り組む「地域との防災活動」のコーディネーターをしています。この取り組みは先進的で、全国でも注目されています。

「中学生は3年間、地域との関わりがないまま卒業してしまうことが多いですよね。そして、常に成績や部活動などで評価されてしまう。でも、実際には一人ひとりが社会で役立つ、大きな力を持っているんです。この活動を通して、〝自分は地域に大事にされている〟という自信を持ってほしい。そして、大人にとっては彼らの姿、〝地域の宝物〟の再確認をする機会になればと思っています」

多忙な日々の中、増田さんはどうしてこれほど生き生きと続けていけるのでしょうか。

「私はどの活動も、無理なく一歩を踏み出すことを大事にしてきました。自分が楽しいことで、誰かが喜んでくれたら、人生を悔いなく豊かに過ごせると思うんです。これからも同じ思いの方とつながりながら、楽しく続けたい。そう思っています」

成田中学校での防災活動の様子。避難所設営も行います。

自然とつながり 地域をさらに元気に

NPO法人 SCR/エスシーアール

平成24年設立。団体名は「Smile（笑顔）・Challenge（挑戦）・Relation（つながり）」の頭文字に由来。森林保全や食育など、地域住民との交流を通して、心と体の健康を育むための活動を幅広く行なっている。メンバーはほとんどが女性。

「とみやLaLaマルシェ」に出店したSCRの皆さん。寒い中でも元気いっぱい。

まずは、自分でやってみる挑戦で広がる活動の幅

昨年度から市庁舎の屋上で養蜂を行い、「とみやはちみつプロジェクト」に携わっているSCRは、富谷で最初にできたNPO法人です。総勢40名、パワフルな女性たちを束ねる、代表の村上幸枝（むらかみさちえ）さんにお話を伺いました。

「活動指針は〝心身を健康にする〟ことです。団体を設立したきっかけは、私の自宅にいろいろな特技を持った仲間が集まっていたこと。マッサージや料理、木工などをお互いに教え合っていて、そのスキルを、もっと広く地域で生かしたいと思ったのが始まりです」

SCRの皆さんの行動力と活動の幅広さには驚きます。今年度は養蜂のほかにも、各地での木工・食育教室といったワークショップ、そして「間伐材で作る積み木1万個リレー」、そうした催しの合間には市内の緑地を整備するなど、目まぐるしく活動されてきました。

「私はもともと、興味があると自分から出掛けて行くタイプなんです。木工教室をすれば、その木材を自分で切り出したくなるので、地元の森林組合へ聞きに行く。必要なものが出てくれば、まずは自分で作ってみる。とにかく、〝まず、やってみっぺし〟（笑）。これはSCRの合言葉になりましたね」

人が人を呼び、原動力に変わる

「うちのメンバーは、仕事をしながら参加している人も多く、来られる人が来る、という感じで、無理なくやっています」と村上さんが話す通り、SCRのメンバーはいつも自然体で常に元気。メンバーの一人が、村上さんの周りに人が集まる理由を教えてくださいました。

「人って、どうしても〝こうでなきゃいけない〟という固定観念が少なからずあると思うんですが、村上さんにはそれがない（笑）。そういう人柄が魅力的で、みんな惹きつけられていくんです」

「私は人が好き」と話す、代表の村上さん。周囲にも自然と笑顔が集まる。

しかし、SCRは代表の村上さんだけでなく、皆さんがそれぞれに輝いて見えます。それは全員が心から楽しんでいることが理由のよう。村上さんがこう続けました。

「私は本当に、人に恵まれているんです。このメンバーがいなければとてもできません。そして、活動する中で新たな出会いもあり、活動の内容が進化してきました。生き生きと活動する輝く女性が富谷にもっと増えて、一緒に楽しく活動できればと思っています」

幼稚園や児童館など28施設を巡回した「積み木1万個リレー」。みんなで木片を磨きました。

富谷産の野菜をもっと多くの人へ

おんないん会

「いらしてください」という方言が名前の由来。平成9年に設立された、野菜農家による会員組織。現在の会員数は約20名で、「食品館イトー仙台泉店」と「ビッグハウス富谷店」内に販売コーナーを設け、野菜および加工品を、インショップ形式で販売している。

おんないん会 会長 小松明巳（こまつ あけみ）さん

接客が見事な小松さん。調理法や特徴などを説明するそばから野菜が売れていきます。

自分の野菜をもう一度自分で売りたい

現在、おんないん会の会長として13年目を迎える小松さんは、もともとは農業とは無縁でしたが、兼業農家に嫁いだことで、自ら「入会したい」とおんないん会の門をたたきました。

「きっかけは、義母が作った野菜を販売したいと思ったんです」と話す小松さん。入会当時、おんないん会は現在とは異なり、商業施設の駐車場などで対面販売を行っていました。

「野菜作りをする仲間に囲まれているうちに、やっぱり自分も作ってみたいと思うようになって。種を蒔いて、芽が出て収穫して…それが面白くなり、農業にハマったんです。自分が作った野菜を、お客さんに直接〝こう食べるとおいしいよ〟とか、話ができるとさらにうれしかったですね」

その後まもなく、おんないん会はスーパーマーケットなどの小売店へ販売を委託したことで、知名度は仙台市で一気に広まりました。しかし小松さんは、お客さんへ自分の野菜を直接売ることの面白さを忘れることができなかったそう。「いつか対面販売を再開したい」という思いを持ち続け、平成28年10月に第1回目となる「とみやLaLa（ララ）マルシェ」を企画し、平成29年12月までに合計8回開催しました。イベントではおんないん会のほか、市内外からハンドメイドショップやレストラン、カフェなどが出店し、毎回、会場となる市役所は多くの来場者でにぎわいました。

夢を話すことが小さな一歩になる

これまでのイベントを振り返っての手応えを伺いました。

「市内の方にも〝おんないん会〟を知っていただくきっかけになったと思います。はじめは対面販売の経験がなく戸惑っていたメンバーが、だんだんと積極的になってきたこともひとつの成果ですね。不安も大きかったけれど、お客さんや出店者さんに〝次も楽しみにしているよ〟と言われるので、〝チャレンジして良かった〟と思っています」

平成28・29年度におんないん会が主催した「とみやLaLaマルシェ」。今年の開催日は広報とみや等でお知らせします。

小松さんが、思い切って一歩を踏み出すことができた理由は何でしょうか。

「私はアドバイスをくれる人や、背中を押してくれる人にすごく恵まれていたんです。そして、まずは自分が〝これをやりたい〟って、周りに発信することも、実は大事なのかもしれません」

おんないん会の皆さん。新鮮でお得な野菜は、売り切れてしまうことも多いので早めにチェックを。

今回の特集を動画でご覧いただけます。

スマートフォン、または携帯で下のQRコードを読み取ってください。